

# 播但一揆に関する史料の紹介

## — 隠された部落解放反対騒擾の史料 —

上 杉 聡

部落解放反対騒擾（「解放令」反対一揆）の史料調査をすすめていて、気になる事例に数多く出くわした。

一番多いのは、非常に重要な史料が、一般によく知られている史料保存施設や史料群の中にあり、あまり苦労せずに発見できることである。とくに、調査済の史料の中から重大な未紹介史料が見出される場合が多いのである。これは、先に調査した者が、意図してか無意識のうちにか切り捨てたり、無視したためと思われる。

もうひとつは史料の改ざんである。筑前竹槍一揆に関して、農民の要求を記した歎願書から、部落解放に反対する条項を、後に削除して公表している場合さえあった。これは『筑前竹槍一揆論』（海鳥社、一九八八年、六〇～六一

頁）に詳述した。

ここに紹介する二つの播但一揆関係史料は、史料一が前者に、史料二が後者に属する。

史料一の「暴動者罪案処刑」は、国立公文書館所蔵の『兵庫県史料』の一部で、旧生野県が管轄していた神東・神西両郡の被処分者に関する罪刑史料である。

これは新史料でなく、すでに小野寺逸也「明治四年播但農民一揆」（『部落問題研究』第二五輯、一九六九年）、阿部真琴「播但農民一揆と賤民解放令」（『徳川林政史研究所紀要』一九七五年）、宮前千雅子「明治四年生野県一揆について」（『部落解放研究』第五六号、一九八七年）などに使用されてきた。その内容は、とくに生野県下での一揆発

生の過程を如実に示すもので、当一揆における部落問題の位置の大きさと、小前層の活発な動きを知ることができる一級史料である。

ところが、この史料の全体を紹介することは、どこでも行われたことがない。たとえば、『兵庫県同和教育関係史料集』第一～三巻（兵庫県部落史研究委員会編、一九七二～一九七四年）にも収録されていない。それがいかなる理由によるものかはわからない。たんに編集者が、右委員会が行った国立公文書館への史料調査の際に見落したにすぎないかもしれない。あるいは罪刑史料であり、しかも「犯罪者」とされた人の子孫が特定される危険性があって省いたのかもしれない。

だが、播但一揆研究を飛躍的に進めた右の小野寺論文は、右史料集の刊行よりはるか以前に発表されており、その編集者が同論文を読んでいなかったとは考えにくい。また子孫が特定できる罪刑史料は、右史料集では他にも多数掲載されているのである。

また、右史料集以外についても、どうしてこのように貴重な史料をこれまで復刻してこなかったのか、と疑問でならない。しかし、私自身も、これが『近代部落史資料集成』第二巻（三一書房、一九八五年）に該当する重要史料でありながら収録していない。兵庫県の場合、すでに翻刻

されている史料が膨大であったため、それらを厳選して限られた頁数に押し込む作業に力を奪われ、原史料の採集に力を入れることができなかったのである。しかし、このように重大な史料を編集できなかった責任はすべて私にあり、これ以上他を批判する資格に欠けるので、ここまでに留めておく。

だが、史料二の元姫路県関係の史料を精読していて、重大な事実気がついた。これは、右の『兵庫県同和教育関係史料集』第二巻、二八四～二九二頁に、一応収められているものである。それを原史料と突き合わせてみたところ、原史料中の最も重要な部分と思われる二箇所が、スッポリと削除されていたのである。その箇所は、本書九三～九五頁の栄蔵・源太郎・太右衛門・新次郎の取調書と、一〇〇頁の「一、旧知事様ノ事」と題されて以降末尾までの、飾磨県から出された告諭書の一部分である。

栄蔵ほかの取調書は、(1)播但一揆の発火点となった辻川村周辺の状況を詳しく記している、他にみられない唯一の史料であり、(2)一揆の直接の発端が、「人別改之節、旧蔵多トモト同席」することを嫌悪することになったこと、したがって一揆の要求も、「兵庫県出庁社村へ参り、蔵多一条可及訴訟」とあって、中心が部落解放反対であったこと、(3)一揆の主導層が、五人組以下の中・下層の農民であ

つたらしいこと、などが明らかになる。

また、告諭書の、「一、旧知事様ノ事」以下の削られた箇所には、一揆の要求の内に、廃藩置県で東京に召し上げられた旧知事の帰国要求が含まれていたこと、牛馬頭数の調査反対の項目もあったことなどが記されている。とりわけて旧知事の帰国要求は、農民一揆が旧幕藩体制下への帰郷を直接的には希望していたことを示すもので、これまでの播但一揆研究を根底から見直すことを迫るほどの重大史料である。

このように、原史料から削除された箇所は、一揆の差別的・反動的性格を浮き彫りにした部分である。なぜ、これらが削除されなければならなかったのだろうか。私は、たんに、史料の一部を削除することが問題だと言っているのではない。限られた頁数に収めるためには、重要と思われる箇所を削除が必要になる場合がある。だが、その場合は、「中略」などの記載をして、原史料に手を加えたことを明記しなければならぬ。すくなくとも、右の『兵庫同和教育関係史料集』第二巻の他の箇所では、そうした処置が行われている。ところが、史料二については、それが無視されているのである。これでは、史料の改ざんであると非難されてもしかたがない。

私は、これが意図的になされたものとは考えたくない。

何らかの偶然のミスが重なってこうなったと信じたい。

『兵庫同和教育関係史料集』全三巻は、これまで、部落史研究の進展に、計り知れない貢献をし、私自身も、いつも御世話になっている史料集である。その点では、同史料集の意義はいささかも減じるものではないが、右の点については、編集上の誤りとして指摘せざるをえない。

あるいは、伏せられた箇所が、農民一揆の恥部であるために、善(悪?)意から削除されたとも考えられる。だが、私たちは、いかなる事実からも眼をそらすべきではないし、読者に対して真実を隠すべきではない。ただ事実に基づいた研究のみが、現実をよく変革する力を持つと信じてきたが、ここに、これまで隠されてきた、あるいは一部の研究者の間だけで利用されてきた二つの播但一揆関係史料の全文を紹介し、今後の同一揆の研究の大きな進展に期待したいと思う。

史料一 播但一揆関係者の処罰について飾磨県から司法省へ伺い 明治七年二月七日

〔刑法〕

〔兵庫県史料〕五〇

神西・神東両郡

暴動者罪案処刑

編輯係

印

飾磨県下神西・神東両郡暴動之者処刑伺并御指令附

司法省へ伺

当県管下神西神東両郡之(暴動)一件、別紙第一葉故高橋与三兵衛罪案中ニ有之暴挙之巨魁小国鉄十郎ナル者ハ、一昨申年七月晦日処決ニ及ヒ候者ニテ、其節御届ニ相成居候へ共、為御参酌口書写一通進達致シ候、初メヨリ右従類ノ見込ニ候得者、一時ノ処決ニ可及ハ勿論之儀ニ候へ共、別紙与三兵衛以下之者ハ、根元生野県ヨリ引渡ニ相成候廉ニテ、其節掛リ之者共別派之見込ヲ以テ引放シ、追々取調候処、右与三兵衛、鉄十郎等相共ニ謀議ヲ通シ候廉ハ無之候へ共、当時之形勢何レモ穢多御処分ノ御布告ヲ不平ニ存候同情ヨリ、彼地此地一時ニ蜂起、忽々接郡隣村へ波及致シ候

儀ニ付、与三兵衛之類ニ至リ別ニ首従ヲ論シ候儀不相当ト詮議致シ候、仍テ別紙ノ通擬律仕候、数十人之掛リ合ニテ病者等モ有之、彼是調方延引、愈以テ不都合ノ儀ニ立至リ候段御聴許有之、此上早々御指揮有之度、此段陳上候也 明治七年二月七日

飾磨県参事 森岡昌純

司法卿大木喬任殿

司法省エ断刑伺案

吟味中病死

高橋与三兵衛

右ノ者、庄屋勤役中、去々未年九月、穢多ノ称被廢平民同様ノ御布告ニ付、同村内旧穢多慢心増長ス可シトノ私意ヲ以テ、元年寄教賀謙蔵へ談シ、組合村吏ノ集会ヲ企、歎訴ヲ為ス而已ナラス、於自宅旧穢多ト掛合方ノ際、既ニ慢心増長ト心得違致シ、彼是痴情ヲ旋ス後、役前ヲモ不顧小前ノ集会ニ出席シ、隣村ヨリ加勢相頼連、漫ニ竹槍ノ義発言イタシ、尚亡伝蔵任申、一村ノ約定書為認、又々村吏中申合セ再歎訴ニ及ヒ、剩神東郡辻川村辺一揆暴挙脅誘スル機ニ臨ミ、村中竹槍ヲ携ヘ可罷出ト指揮致シ、遂ニ不易騒擾ニ立至リ、加之右一件元生野県ニ於テ札ノ節、罪科為可遁、謙蔵ヲ欺キ、竹槍ハ同人発言トノ口供差出サセ候科、

兇首ヲ以テ論ス可キニ似タリト雖トモ、頑固ノ小民一般旧習ヲ脱セス、疑惑動揺ノ際ニ庸リ、痴愚ノ情ヨリ前件ノ不規ヲ為ス者ニシテ、村市ヲ毀壞焼亡シ官ヲ辱ムルモノハ、一時他兇悪人ノ造意ナレハ、其情状ヲ原諒シ、一揆脅誘ノ砌村民ヲ指揮シ勢ヲ助クルヲ以テ、辻川刃暴拳ノ巨魁去七月斬罪ニ被処小国鉄十郎ノ從ト見做シ、存命ナレハ賊盜律兇徒聚衆条ニ依リ、懲役十年申付可然哉

但、事犯頒例以前ニ在ルヲ以テ、原律二死三流同一減ノ法ニ依テ相伺候

播磨国第十大区二小区今井村

敦賀謙蔵

右ノ者、年寄勳中、去々未年九月、穢多之稱被廢平民同様ノ御布告ニ付、元庄屋故高橋与三兵衛ニ同意シ、私情ヲ押張り村吏集會ヲ企、歎訴ヲ為ス而已ナラス、役前ヲモ不顧小前集會ノ場へ出席シ、隣村ヨリ加勢相頼連、与三兵衛発意竹槍ノ義ニ与シ、於同席亡伝兵衛申ニ随ヒ一村約定ノ案詞ヲ認、尚又村吏中申合セ再歎訴ニ及、剩神東郡辻川村辺一揆ヨリ脅誘ノ砌、村中竹槍携可罷出旨与三兵衛俱々指揮イタシ、遂ニ不容易騷擾ニ立至リ、右一件元生野泉ニ於テ糺ノ節、同人ニ被欺、病惱中トハ乍申、無美ノ口供差出ス科、賊盜律兇徒聚衆条ニ依リ、從ノ又從タルヲ以テ累減

シ、懲役三年申付可然ヤ  
但、減法同上

同国神西郡鶴居村

岡田利平

右ノ者年寄勳役中、去辛未年九月、穢多非人ノ稱廢止ノ御布告ヲ歎キ、今井村謙蔵申条ヲ賛成シ、村吏集會ヲ企、歎訴ヲ為ス而已ナラス、組中元穢多ト売買不致テハ不相叶トノ申合セラ快ヨシトセス、同村利七ヲ以テ小民呼集、不条理ノ達ニ及ヒ、且近隣今井村ニ見習、竹槍用意為致、他村加勢ノ頼ヲ諾シ、尚又村吏中申合セ再歎訴ニ及ヒ、加之爾後辻川村辺騷擾流言ニ恐ル、連、竹槍携可罷出旨小前へ指凶ニ及ヒ、終不容易騷擾ニ立至ル科、賊盜律兇徒聚衆条ニ依リ、從ノ又從タルニ付累減シ、懲役三年可申付哉

但、減法同上

神西郡下沢村農

堀 吉太郎

右ノ者義<sup>辛未云々</sup>御布告ニ付テハ、旧穢多ノ者エ物品売買ニ付人氣不穩連、小前ヲ集メ、時宜ニヨリ旧穢多取押ヘノ示談ニ及ヒ、近村へ加勢助力ノ義頼遣シ、猶組中惣寄合ヲ醸スニ因リ、爾後辻川村辺兇徒ニ脅誘セラレ、右寄合ノ者預

テ申合ノ如ク相凶ノ早鐘ヲ撞、一同暴起、遂ニ不容易騷擾ニ立至ルト雖モ、固ヨリ衆ヲ聚メ村市ヲ毀壞シ官廢ニ強逼スルノ念ナク、畢竟自家保安ノ痴情ニ出ルモノニシテ、脅誘暴起セシムル者ハ、是亦別ニ兇悪人ノ造意ナレハ、從ヲ以テ論シ、情輕キニ依リ、改定律例第一百五十一条ニ照シ、懲役三年可申付哉

但、其情憫諒スヘキヲ以テ、贖ヲ聽シ可然ヤ

神西郡下沢村農

堀 金兵衛

右ノ者義、辛未云々御布告ニ付、旧穢多強勢ノ節ハ助力取押ノ義隣村エ依頼シ、且組内惣寄合之示談ニ至ル迄、総テ同村吉太郎発意ニ重立同意致スト雖トモ、是亦衆ヲ聚メ村市ヲ毀壞シ官ニ強逼スルノ念ナク、畢竟旧習ノ愚民疑惑動揺ノ際、吉太郎商業体ニ付、憂苦ノ情ヲ量り唱和スル者ナレハ、其情最モ輕ク、且從タルヲ以テ同人ニ一等ヲ減シ、前回律ニ照シ、懲役二年半可申付哉

但、吉太郎ヨリ示談ヲ受ケ、同村同家ノ親ミ黙止難ク、且一時ノ民情総テ穢多ト混同スルヲ歎クヲ以テ、獨立シテ其議ヲ拒ムコト不得、遂ニ雷同スルノ情状憫諒ス可キニ依リ、是亦贖ヲ聽シ可然哉

同郡同村

堀 三郎

右ノ者義、庄屋勳役中、辛未九月云々ニ付歎訴ニ及ヒ、一旦理解承諾ノ上ハ、役前ニモ有之万事注意可致ノ処、無其義、尚又再歎訴致シ、其後辻川村辺兇徒ノ流言ニ依リ、村中騒立候連、一同押出シ可申旨指揮致シ、加之元生野泉官員ノ横死ヲ伝承シ、同泉ニ斬罪ニ被処タル同村利助所持ノ竹槍ニ生血染ミ有之ヲ見受、後難ヲ思ヒ回ラシ、一同槍并ニ槍印可打捨旨申達スル科、二罪俱発一ノ重、改定律例第三百十一条ニ擬断シ、本犯利助ノ罪ニ二等ヲ減シ懲役十年ニ該ル処、真ニ罪人ヲ藏匿指引シテ隱避セシムルニモ非ス、兇徒騷擾中其身村長トシテ里民ノ後難ヲ憂ル一時ノ畏怖心ヨリ、忽然不逞ノ言ハヲ発ス、其情原諒ス可キヲ以テ、贖ヲ聽シ可然ヤ

但、事犯頒例以前ニ在ルヲ以テ、原律二死三流同一減ノ法ニ依リ、懲役三年ニ科断シ可然ヤ

神西郡鶴居村農

岡田利七

右ノ者義、去辛未九月云々御布告歎ケ敷存ル央、同村元年寄利平儀、組内元穢多ト売買可致トノ申合セラ不快ニ存ル連、日待ト唱へ集合ヲ醸ス科、雜犯律不応為重ニ問ヒ、懲

役七十日可申付哉

神東郡屋形村農

内藤文右工門

神西郡森垣村農

里見伊右工門

右ノ者共、庄屋勤役中、去辛未九月中云々ニ付、集会ノ上私情ヲ以組々打合せ、俱々歎訴ニ及ヒ、篤ト理解承ル上ハ何レモ役柄ノ身分、夫是注意ス可クノ所無其義、尚又再歎訴致シ、爾後辻川村辺兇徒ノ流言ニ恐レ候迎、村中ノ者ヘ加党可致旨指揮スル科、雜犯律不為ノ重二問ヒ、懲役七十日申付可然ヤ

神東郡屋形村農

左納基助外十七人

右ノ者共、庄屋年寄勤役中、去辛未云々御布告ニ付集会、私情ヲ以歎訴致ス而已ナラス、辻川村兇徒ノ流言ニ恐ル、迎、村々一同加党可罷出旨申達スル科、雜犯律不為ノ重二問ヒ、懲役七十日ノ処、騷擾切迫里民惑乱ノ際、傑然獨立シテ防禦鎮撫スル不能、附和シテ一村ノ残害ヲ免レントノ恐怖心ヨリ、狼狽シテ不規ノ指揮ニ及フ事態、其情原諒ス可キヲ以テ、贖ヲ聽シ可然哉

神西郡森垣村農

小田久平外七人

罪科同按  
贖ヲ聽シ可然ヤ

同郡福渡村農

上月滝藏  
外三十六人

右ノ者共、庄屋年寄勤役中、去辛未云々御布告ニ付近村暴動ノ節、流言ニ恐レ、小前ノ者騒キ立ル共、元來右村方ニ於テハ故障無之、歎訴ニモ及バサル上ハ篤ト理解致シ、取鎮方注意可致ノ処無其儀、一同竹槍携加党可罷出旨相達ル科、不為ノ重二問ヒ、情少シク輕キヲ以テ、改定律例不為ノ第二百八十九条ニ依リ、從ト見做シ一等ヲ減シ、懲役六十日ニ科断シ、是亦附和シテ村里ノ残害ヲ免ントノ恐怖心ヨリ出ルモノナレハ、其情ヲ量リ贖ヲ聽シ可然哉

神西郡小室村農

福田福之助

右ノ者共、去辛未九月中、兇徒暴動ノ節、附和隨行致ストハ乍申、自分造意ニテ旗幟ニ類スル目印ヲ拵ヘ持參スル科、雜犯律不為ノ輕二問ヒ、懲役三十日可申付ヤ

同郡鶴居村農

岩見直藏

外十三人

右ノ者共、去辛未云々ニ付小室天神社工集会シ、不束ノ

示談ニ及フ科、雜犯律違令条輕二問ヒ、懲役三十日ニ科断シ、元來衆ヲ暴挙ヲ企ルノ念ナク、村惣代トシテ相集リ、固ヨリ頑愚ノ小民故漫々不率ノ談判ニ及フ者ナレハ、是亦其情ヲ量リ、贖ヲ聽シ可然哉

神東郡屋形村農

内藤吉兵衛

右ノ者、鶴居村立入庄屋勤役中、辛未云々御布告海内一般ノ義ニ付、歎願相立申間敷ト弁別イタシ乍ラ、今井村謙蔵發意、鶴居村利平賛成ニ泥ミ、終ニ承諾、村吏中集会セシメ、再度歎訴ニ及ヒ、理解ヲ受ケ、彼是配慮ストハ乍申、所轄ノ村々追々動揺スルヲ等閑ニ打過ル科、違式ノ輕懲役一十日、贖ヲ聽シ可然哉

神西郡下沢村農

木村藤三郎

右ノ者、百姓代勤中、辛未云々ニ付村吏中ヨリ歎訴シ、理解ヲ受訴状ノ下リシヲ承知シナカラ、同十月会所ヘ寄合再願、惣代トシテ旧生野県ヘ罷出ル科、改定律例第六條ニ依リ、阿責可然哉

同郡鶴居村農

渡辺庄三郎

右ノ者共、去辛未年十月中、奸民暴挙ニ附和隨行中、物品拾ヒ帰、入牢ニ至ル迄不届出科、雜犯律得遺失物條ニ依

リ、座贓ヲ以テ論シ、一等ヲ減シ、右代価五円以下ニ付、阿責可然哉

同郡下沢村農

堀 儀三郎

堀 房次郎

右ノ者共、去辛未九月穢多非人ノ称被廢止ノ御布告ニ付、同十月中、本家堀吉太郎ノ頼ニ隨ヒ、村内葉師菴ヘ集合ノ儀触達スル科、改定律例違令条第二百八十八條ニ依リ、懲役二十日ニ科断シ、事情原諒スヘキヲ以テ、贖ヲ聽シ可然哉

右之者共、別紙罪案之通ニ付、前書擬律ノ如ク可申付哉、此段奉伺候也

明治七年二月

司法卿 大木喬任殿

飾磨県參事 森岡昌純

播磨国第十大区神西郡

第二小区今井村農

高橋与三兵衛

罪案口招

一、自分義、庄屋勤役中、去々未年九月十七日、穢多平民

同様ノ御布告有之、從來当村内旧穢多ハ重頭、強情ニテ扱兼候処、自今慢心増長故障出来モ難計、困入候旨發意、元年寄喜一兵衛事謙蔵ヘ相話シ、小前モ難渋申居候ニ付、同人ヨリ触元内藤吉兵衛ヘ示談、同廿一日、組内村役人屋形村会所ヘ寄合、歎願ノ企ニ及ハセ、自分ハ病氣故不參、喜一兵衛差出シ候処、一同評決、当組並元森垣・猪笹ノ両組ト打合せ、元生野御具ヘ歎書差出シ候処、御理解ノ上御下ケニ相成、追々人氣悪シク、旧穢多ト商不致候ヲ其儘ニ致シ置候処、同十月三日、当村内字大日ノ旧穢多四人、自分方ヘ參リ、椽ニ腰掛ケ、以来斃牛埋場並諸事平民同様扱具レ候様申ニ付、既ニ慢心増長ト存、右喜一兵衛ヲ以テ隣村情態問合セ候処、何レモ不穩、下沢村元庄屋治三郎ト示談、村役人再會歎願可致迎、同日一統会所ヘ打寄候得共、右吉兵衛ヨリ差止メ、尚是迄通穢多ト商可致ト申ニ付、一同退散、其旨小前ヘ相達シ、同日村中寄合致シ、自分モ出席、右一件相談中、下沢村ヨリ使ヲ以テ、穢多大勢押来ル由ニ付加勢相頼ト申故、其段承諾、然ルニ右加勢空手ニテモ難參一同申ニ付、是ハ竹槍仕事ト自分發言、早速何レモ取持、猶亡伝蔵發言ニテ約定書認メ候節、鶴居村ヘ人氣問合ニ遣シ候使罷帰、明日小室村天神社ヘ組内惣寄合ノ旨、右寄合ノ者共ヨリ伝言ニ付、喜一兵衛ト示談、当村モ惣代トシテ差出シ候者兩名定置、翌六日ハ病氣ニ付自宅ニ臥居

リ、同七日、再ヒ会所ヘ村々役人參會、再歎願可致ト評決、同八日、自分外二人惣代ニテ出願候処、又々厚御理解有之、願書御採用ニ不相成、同十日帰村、其旨小前ヘ相達置候、然ルニ同月十三日夕方ヨリ、神東郡辻川村辺騒擾、翌十四日加勢ニ不出村ハ焼払、突殺候杯流言有之、村中騒キ立候機ニ臨ミ、喜一兵衛ト相談、一同竹槍携罷出候様差凶ニ及ヒ、即刻自分ハ屋形村ヘ駈行心配中、当村始近郷ノ者多人數押来リ候故潜居中、右一揆共元生野御具官員殺害、夫ヨリ生野鉾山寮御出張所放火、乱暴ニ及ヒ候様成行、奉恐入候事

一、右一件、元生野御具ニテ御糺ノ節、喜一兵衛重病、郷宿ニ臥居候処、同人竹槍發言ノ趣達御聞自分ヘ御尋有之、事實可申上処罪科可遁ト存、郷宿ヘ參リ喜一兵衛ヲ欺キ、同人造意ノ旨無実ノ口上書調印致サセ、同御具ヘ差出シ候ヘ共、竹槍ハ全ク自分發言ニ候事

右ノ通、相違不申上候、已上

明治六年七月十五日

『司法省御指令以下皆同シ』

他村ノ騒擾流言ニ脅誘セラレ、村民モ加党ヲ指揮シ、其兇焰遂ニ近村ニ波及シテ官吏ヲ殺死シ、官舎ヲ焼毀スルノコトアルニ至ルト雖モ、其兇行固ヨリ該犯ノ意匠ニ出ルニ非ス、且兇毀ノ熾ニ至ルヲ見乍チ反正シテ鎮撫ノ周旋ヲナス

ニ依リ、改定律例第一百五十一条兇徒聚衆ノ從ニシテ情輕キ者ニ擬シ

存命ナレハ懲役三年

余罪ハ輕シ、論セス』

播磨国第十大区神西郡  
二小区今井村農  
喜一兵衛事

敦賀謙蔵

罪案口招

一、自分義、年寄勤役中、去々末年九月十七日、穢多平民同様ノ御布告有之、然ルニ当村内穢多ハ家数多ク、元ヨリ重頭強情ニテ扱兼候処、今般ノ御布告ニ付、慢心増長シ故障出来候モ難計差困候旨、元庄屋与三兵衛發言、小前モ難渋申居候故、同月廿日鶴居村元年寄利平方ニテ、同村立入元庄屋屋形村内藤吉兵衛ニ出逢、同人ハ以前大庄屋相勤候者ニ付、当組十三ヶ村ヨリ触元相頼諸事相同取扱来候ニ付、前書与三兵衛咄ノ趣ニ依リ、右穢多一件甚心配致候間組内村役人一同寄合歎願差出賃度相頼候処、海内一般ノ御布告ニ付、迎モ相立間敷旨吉兵衛申聞候傍ヨリ、利兵衛義余リ残念ニ付打寄歎願致度申述、終ニ吉兵衛承諾致シ、明日寄合候様申ニ付、自分ヨリ下四ヶ村ヘ回状差出シ、奥五

ヶ村ヘハ利平ヨリ言繼致シ、其旨与三兵衛咄シ、翌廿一日、同人病氣ニ付、自分義会所ヘ罷越シ、右歎願ノ相談決シ、願書下案認中、同郡森垣村元庄屋伊右エ門ヨリ歎訴打合ノ書状到来、為惣代自分并屋形村元庄屋丈右エ門森垣村ヘ參リ、元同組猪笹組一紙ノ歎願元生野御具ヘ差出候処、同廿五日、厚御理解、願書御下ケ相成、追々人氣悪ク、諸方共旧穢多ト売買不致候様相成候ヲ其儘ニ致シ置候処、同十月三日、当村字大日ノ旧穢多四人、右与三兵衛方椽ニ腰掛、以来諸事平民同様取扱具候様申ニ付、翌四日、同人任頼、隣村ノ様子問合ニ參候処、下沢村ニテハ斃牛埋場并穢多ト売買ノ儀相談中ノ由、元庄屋治三郎ヨリ承リ、当村様子モ相咄候上再會企、下向ヘハ自分ヨリ回文差出、奥ヘハ治三郎ヨリ相達、同夕又々会所ヘ寄合、前件且当村内穢多ハ身元宜シキ者多有之、兎角強情ニ付、小前ノ者モ外村ヨリハ別テ相歎居候間、再ヒ歎訴致度及相談候ヘトモ、前書吉兵衛ヨリ、最早村役人ヨリ強テ歎願可致筋ニ有間敷、猶旧穢多ト是マテ通売買為致候様申ニ付、何レモ退散、其旨小前ヘ相達シ、同日村内明キ家ヘ小前惣寄合、与三兵衛并自分モ罷出候処、差当リ、斃牛有之共穢多取扱具サル由ニ付、右埋場取極度杯相談中、下沢村ヨリ使来、酒屋ヘ穢多大勢押来由、其節ハ加勢相頼ト申ニ付、承知ノ及返答、跡ニテ与三兵衛ヨリ何レ是レハ竹槍仕事ト發言、乃チ一同

取捨、猶亡伝蔵約定書可致ト発言、自分下書相認、小前ニ清書為致、且鶴居村へ人氣問合ニ遣シ候、使罷帰、明日ハ小室天神社へ組内総寄合ノ旨、右村寄合ノ者共ヨリ伝言ニ付、与三兵衛ト示談、当村モ為惣代差出候兩名定置、同六日、旧知事様御巡回、屋形村御泊ニ付、村役人一同参居候処、右惣寄合ノ義前書吉兵衛差図ニ依リ差止メ、翌七日、旧知事様御見送後、猶又会所へ打寄、右様小前人氣不穩、再歎願可致旨決談、同八日、与三兵衛外二人為惣代出願候処、又々厚御理解有之、願書御下相成、其段小前へ達置候処、然ルニ同十三日夕方ヨリ、元姫路県下神東郡辻川村辺騷擾、火ノ手相見、翌十四日一揆ノ者当方へ可押来、加勢ニ不出村ハ焼払突殺ス杯流言有之、一同恐怖騷立候機ニ臨ミ、与三兵衛ト談シノ上、村中前竹槍携罷出候様及差図候折柄、小室天神ニテ早鐘撞、近郷ノ者共寄集、不容易形勢ニ付、自分ハ屋形村へ駈付、元生野御具御出張御官員ノ御指揮ヲ請ケ、取鎮方周旋中、多勢竹槍鉄砲携押来候故潜居候処、右御官員殺害、翌十五日生野鉾山寮御出張所放火致シ候様成行、奉恐入候事

一、右一件、元生野御具ニテ御吟味ノ節、自分大病相煩、郷宿ニ養生中、与三兵衛罷越、右竹槍自分発言ノ旨不書上候テハ帰村難成ト申ニ付、病苦ノ余リ任其意、無実ノ書付調印、差上候ヘトモ、竹槍ハ全ク与三兵衛発意ニテ拵候ニ

相違無之候事

右之通、相違不申上候、已上

明治六年七月十五日

『高橋与三兵衛ト同ク擬シ、本罪ヨリ一等ヲ酌減シ』

懲役二年半

余罪ハ輕シ、論セス』

播磨国第十大区神西郡

第二小区鶴居村農

岡田利平

罪案口招

一、自分義、年寄勤役中、去々末年九月十七日、穢多ノ称被廢平民同様ノ御布告有之、歎敷存シ乍ラ小前へ達シ置候、然ルニ同廿日、自宅へ当村元立入庄屋内藤吉兵衛罷越、今井村元年寄喜一兵衛来合セ、同人ヨリ旧穢多一件村役人中集会歎願致シ度申ヲ、吉兵衛儀速ニ立問敷ト申聞候傍ヨリ、自分モ余リ残念ニ付、何卒出願致シ度申述、終ニ吉兵衛承知、明日参会可致申ニ付、奥向へハ自分ヨリ言繼キ、下モ向へハ喜一兵衛通達、翌廿一日屋形村会所へ村々役人打寄談決、惣代二人元森垣・猪笹両組ト打合セ、元生野県へ歎願差出候処、御理解ノ上御下ケニ相成、同十月四日、再ヒ会所へ寄合再歎願ノ相談ニ及フヲ、右吉兵衛ヨリ

差止メ、且旧穢多ト売買不致由甚タ不相濟故、是迄通商可致ト申ニ付、一同退散候へ共、自分ハ不承知故、翌五日本家利七へ右ノ趣相話シ候処、日待ト唱村中寄合示談ニ及フ可クト申、乃広徳寺へ小前集会相催シ、自分モ出席、穢多ト売買ハ村方了簡次第ト申達シ、右一件相談中、下沢村ヨリ使ヲ以テ穢多大勢押来ル由ニ付加勢相頼ト申故、其段承諾、其砌今井村ヨリ人氣問合ニ来リ、既ニ同村ハ竹槍拵居候旨相咄ニ付、当村モ同様拵候様指揮ニ及ヒ候処、翌六日ハ、小室天神社へ村々小前寄合候由風聞有之候へ共、其儘ニ打過、同日旧知事様御巡回、屋形村御泊ニ付、自分参リ居候処、右惣寄合致シ候趣相聞へ、吉兵衛差図ニ依リ差止メ、翌七日会所ニ於テ再歎願ノ相談致シ、自分外二人同八日出願候処、猶又厚御理解ノ上御下ケニ相成、其段小前へ達シ置候、然ルニ同十三日、神東郡辻川村辺騷擾、翌十四日、加勢ニ不出村ハ焼払、突殺シ候杯流言ニ恐怖、村中竹槍携罷出旨指揮致シ置、自分ハ屋形村へ馳行心配中、当村始近郷ノ者多人数押来リ、元生野御具御官員殺害、尚生野鉾山寮出張所放火乱暴ニ及ヒ候様成行、奉恐入候事

明治六年七月十五日

『近村ノ兇徒ニ脅誘セラレ、村民ニ加党ヲ指揮スルモ、其情畏懼バムヲ得サルニ出ルヲ以テ情ヲ量リ、雜犯律不応為

重キニ問ヒ、贖ヲ聽ス

贖罪金五円二十五銭

余罪輕シ、論セス』

播磨国第十大区神西郡第二小区下沢村

堀 吉太郎

罪案口招

一、自分義、農間酒油醬油製造ノ処、去々末年九月十七日、穢多平民同様ノ御布告ニ付人氣不穩、諸方共旧穢多ト売買不致候へ共、自分方ハ同十月初旬迄商致シ候ヲ、彼等ト一緒ニ相成居候旨風説、人氣立候モ難計、恐シク存、同月三日ヨリ売止候、然ル処、同日村内字出屋敷住居ノ旧穢多四人罷越、外々へ不売トモ出屋敷へハ売與レ度、来ル六日否ノ返事承リニ可参ト申罷帰、近辺ノ穢多所々へ毎々寄合候ニ付、苦慮心配中、同五日庄屋方ヨリ是迄通商可致旨達シ有之、旧穢多へ売レバ一同ノ人氣ニ障リ、売ラサレハ彼等ノ処業難計、去リ迎庄屋ノ申付モ背カレス、苦情切迫ノ余リ親類儀三郎、房次郎へ相話シ、村中寄合触質、同日夕、村内葉師菴へ集会、右ノ次第一同ノ者へ相談ニ及ヒ候へ共、一同返答無之ニ付、穢多強情申来ル節村中ヨリ取押呉レ候ヤト尋候処、防キ可遣ト一同相答候へ共、小村ニ付近村へモ加勢頼置度談シ候処、是又一同承知ニ付、小前三

人へ右頼ノ使申付候砌、誰發言ト無ク、旧穢多共強勢ノ時ハ村々相図定置ケハ便利ト申ヲ聞、自分疎忽ニ存付、金兵衛へ談ノ上、右使ノ者へ序ニ組内惣寄合ノ相談致シ来候様申含、今井村、鶴居村へ遣シ候処、両村小前集会所へ参リ、前条加勢相頼、翌六日小室天神社へ大寄合ノ相談迄致シ帰リ候ニ付、同日小前三人惣代トシテ右社へ差出シ候事

一、右同処寄合ノ衆評ハ、斃牛ハ村端へ埋メ、穢多一件ハ歎願致シ、村役人取次候へハ、旧知事様へ直願可致、尤奥向ニ事有レハ相図次第下モ向ヨリ馳付、下モニ事有レハ天神ノ鐘撞キ奥ヨリ馳付、互ニ助合ノ相談中、村々役人ヨリ差止メラレ退散致シ候趣、翌日承リ候事

一、同十三日夕、神東郡辻川村辺騒擾、十四日諸方追々騒キ立、小室天神ニテ鐘撞、村中一同罷出候節、自分ハ代人差出候、然ルニ右一揆屋形村ニテ御官員殺害、翌十五日生野鉾山寮出張所放火、乱暴ニ及ヒ候様成行候段、後ニ承リ奉恐入候事

右ノ通、相違不申上候、以上

明治六年七月十五日

『穢多襲来ノ予防ヲナサン為メ、隣佑ヲ集メ、其勢援ヲ依頼スルハ、自己安寧ヲ図ルノ意ニシテ、敢テ責ムヘキノ罪ナシト雖モ、騒擾ノトキ代人ヲ出シ、兇徒ニ随行セシムルヲ以テ、改定律例第五百二十二条附和随行シテ其場ニアリ勢

ヲ助クル者ヲ以テ論シ、違令輕ニ問ヒ、贖ヲ聽ス

贖罪金二円二十五銭』

播磨国第十大区神西郡二小区下沢村  
堀 金兵衛

罪按口招

一、自分儀、去未年九月十七日、穢多平民同様之御布告後、人氣不穩旨承リ居候処、同十月五日、元庄屋治三郎方へ小前一同呼寄、組内申合せニ付、是迄通り穢多ト売買可致旨違有之、同夕村内薬師菴へ村中寄合、酒屋吉太郎儀、穢多へ売レハ一体之人氣ニ障リ、売ラサレハ彼等ヨリ如何ヨウノ所業致哉モ難計、去リ逆庄屋申付モ背レス当惑ニ付、如何可致ト申述、一同答不致候処、若穢多共強情申来候へハ村中罷出取押へ呉候哉ト申ニ付、其節ハ防可遣旨自分發言、小前モ同様相答候、然ルニ当村ハ小村ニ付、兼テ近村へモ加勢頼置度同人申ニ付、是亦自分初一同承諾、今井村人氣聞合、其上同村并鶴居村へ加勢可頼迎小前三人使ニ申付、序ニ組内惣寄合之相談致来レト吉太郎發言ニ、自分モ同意シ、右三人へ申含差遣候処、両村共承知、明日小室天神社へ大寄合ノ相談致帰リ候ニ付、小前三人惣代ニ遣シ候事

一、右社へ七ヶ村惣代寄合、斃牛ハ村端ニ埋、穢多一件ハ

村役人ヲ以テ歎願ニ及ヒ、若不取次ハ、幸旧知事様屋形村御泊リニ付直願可致、尤穢多強勢ノ節ハ相図次第五ニ助合之相談中、村役人ヨリ退散被申付候旨、翌七日承リ候事

一、同十三日夕、神東郡辻川村辺騒擾、十四日ニ至リ諸方騒立、右天神ノ早鐘ヲ聞、小前一同罷出候節、自分ハ雇人ニ竹槍為持遣候、然ルニ屋形村ニテ、誰所業トモ不知、元生野御官員殺害、同十五日生野鉾山寮出張所放火、乱暴及ヒ候様成行、奉恐入候事

明治六年七月十五日

『堀吉太郎ニ同シ

贖罪金二円二十五銭』

播磨国第十大区神西郡二小区下沢村

治三郎事

堀 三郎

罪按口招

一、自分儀、庄屋勤役中、去々未年九月十七日、穢多平民同様御布告ニ付人氣不穩、心痛罷在、同廿一日、神東郡屋形村会所へ組内村役人寄合、歎願ノ及相談、翌廿二日、惣代二人元森垣、猪笹両組ト打合せ、元生野県へ歎書差出シ候処、御理解之上御下ニ相成、其砌ヨリ諸方共旧穢多ト売買不致、同十月三日、村内字出屋敷穢多三人堀吉太郎方へ

商ノ掛合ニ参リ、翌四日、今井村庄屋縁ニ穢多腰掛候趣、同村元年寄喜一兵衛ヨリ承リ、同人発意ニ随ヒ、再ヒ村役人中集会相企、奥四ヶ村へ自分通達、外村ハ喜一兵衛ヨリ回状差出シ、同日右会所へ打寄相談中、触内内藤吉兵衛再歎願差止メ、且穢多へ是迄通商可致旨申ニ付、一同退散、翌五日、右之趣村中へ達候処、同夕薬師菴へ小前集会致候由、跡ニテ承リ候事

一、同六日、小室村天神社へ組内之者寄集候ニ付、早速差止メ、翌七日猶又右会所へ村役人中打寄、再願書相認、惣代三人元生野県へ罷出候へ共御採用無之、其段村中へ達シ置候、然ルニ同十三日夕ヨリ、神東郡辻川村辺騒擾、加勢ニ不出村ハ焼払、突殺ス杯流言有之、右小室天神社ニテ早鐘撞、村中騒立候、依リ一同罷出ト申達、其後不容易形勢ニ至リ、元生野県白洲権少属様外御一人屋形村へ御出張ニ付、同村へ駆付、御指揮受鎮静方心配中、一揆押来リ、不束ノ強願イタシ、右御官員ヨリ願ノ廉々御書下ケ被成、自分大声ニ誦上ケ候節、炮発又ハ瓦石投付候故、其場逃延ヒ、一揆川西へ退候後会所へ立戻リ、御官員横死ヲ聞、川西へ駆行候処、村方亡利助携居候竹槍ニ血付候ヲ見受候ニ付、後難ヲ恐レ、一同槍并印等打ステ候様申聞、引返シ、於会所評議中、一揆共翌十五日生野鉾山寮出張所放火、及乱暴候様成行、奉恐入候事

右之通、相違不申上候、以上

明治六年七月十五日

『近村ノ兇徒ニ脅誘セラレ、村民ニ加党ヲ指揮スルモ、其情畏懼已ムヲ得サルニ出ルヲ以テ情ヲ量リ、雑犯律不応為重キニ問ヒ、贖ヲ聴ス』

贖罪金五円二十五銭

余罪ハ輕シ、論セス』

播磨国第十大区神西部

二小区鶴居邨農

岡田利七

罪案口招

一、自分儀、去々未年九月十七日、穢多平民同様之御布告有之歎敷存候処、同十月五日、元年寄利平罷越、組合村役人集会、是迄通穢多ト売買可致旨立入庄屋吉兵衛申候へ共不承知ノ趣申二付、自分発言ニテ、日待ト唱村内広徳寺へ小前寄合相触候段、奉恐入候事

一、右寄合中、下沢村ヨリ使ヲ以、穢多暴行ノ節加勢相頼、且組内惣寄合ノ相談有之、今井村ヨリモ同様加勢頼来、一同承諾罷在、同月十四日十五日、騒擾ノ節、自分ハ村方為心付居殘、何方へモ不參候事  
右之通、相違不申上候、已上

明治六年七月十五日

『旧穢多ト売買スルヲ不快トナシ、寺刹ニ村民ノ集合ヲ触ル、ニ依リ、情ヲ量リ、雑犯律不応為輕キニ問ヒ、贖ヲ聴ス』

贖罪金二円二十五銭』

播磨国第九大区神東郡

四小区屋形邨農

内藤丈右エ門

罪按口招

一、自分儀、庄屋勤役中、去々未年九月十六日、但馬国生野表へ罷越、神西部森垣村元庄屋伊右エ門ニ出會、穢多平民同様御布告有之、但州ハ既ニ及歎願候由ニ付、当方モ可歎出ト相話シ立別レ候後、右御布告拜見、触元内藤吉兵衛へ飛脚ヲ以テ差送り候節、元森垣組モ歎願致スニ付、組内野村穢多へ布達以前ニ相談致候テハ如何ト手紙遣置、帰村ノ上、同廿一日、村方會所へ組内村役人寄合、歎願ノ相談ニ及ヒ、神西部鶴居村元年寄喜一兵衛案詞認中、右伊右エ門ヨリ歎願打合セノ手紙到来、自分并ニ喜一兵衛、惣代ニ頼マレ翌廿二日森垣村へ參リ、一紙連印ニテ穢多是迄通り御据置被下度旨、元生野儀へ相願候處、同廿五日厚御理解、願書御下ケニ相成、其段村々役人へ通達致シ、同十月

四日、再ヒ村役人中寄合ニ付、代人差出候處、再歎願ノ相談ニ及ラ右吉兵衛ヨリ差止メ、且穢多ト是迄通売買可致旨申二付、其段小前へ申達候、然ルニ同六日、旧知事様御巡回、当村御止宿ノ節、小室村天神社へ村々ノ者惣寄合致居候趣相聞へ、吉兵衛差図ニテ早速差止、翌七日旧知事様御立後、村役人中會所へ打寄り、尚又再歎願ノ相談ニ及ヒ、惣代三人同御儀へ出張候處精々御理解、願書御下ケニ付、其旨小前へ相達置候處、同十三日夕方ヨリ、元姫路県下同郡辻川村辺騒擾、火ノ手相見へ、翌十四日ニ至リ、加勢ニ不出村ハ焼払、突殺トノ流言ニ恐怖、一同竹槍携へ罷出候様及指図候後、元生野儀御官員出張鎮静方御指揮中、近村ノ一揆押来リ、終ニ右御官員殺害、翌十五日生野鉾山寮出張所放火、及乱暴候様成行、奉恐入候事  
右之通、相違不申上候、以上

明治六年七月十五日

『近村ノ兇徒ニ脅誘セラレ、村民ニ加党ヲ指揮スルモ、其情畏懼已ムヲ得サルニ出ルヲ以テ、情ヲ量リ、雑犯律不応為重キニ問ヒ、贖ヲ聴ス』

贖罪金五円二十五銭

余罪ハ輕シ、論セス』

播磨国第十大区神西部

一小区森垣村農

里見伊右衛門

罪按口招

一、自分儀、庄屋勤役中、去々未年九月十六日、穢多非人ノ称被廢平民同様ノ御布告ニ付、但州村々歎願ノ相談致ス由承リ、神東郡屋形村元庄屋丈右エ門ニ出逢、当方モ可歎出ト申相別レ、同十七日御布告拜見、自分触元ニ付夫々へ達シ、同廿日、元森垣組、元猪笹組村役人中呼集歎願可致ト談決、右丈右エ門方へモ書状ヲ以打合セ、元屋形組ト都合三組一紙連判ニテ、穢多是マテ通御据置被下度旨、元生野儀へ及歎願候處、厚御理解ノ上願書御下ニ相成、其後穢多ト売買不致方可然旨、組合村々役人へ申聞候事

一、同月十三日、神東郡辻川辺騒擾相聞へ、同十五日、屋形村辺ノ者竹槍鉄炮携へ押来、加勢不出村ハ焼払突殺候杯流言ニ恐怖、当村モ一同可罷出トノ致差図候處、右近村ノ一揆同御儀下ニ迫リ、鉾山寮御出張所放火、及乱暴候様成行、奉恐入候事  
右之通、相違不申上候、以上

明治六年七月十五日

『内藤丈右衛門ニ同

贖罪金五円二十五銭

余罪ハ輕シ、論セス』



播磨国第九大区神東郡  
四小区屋形村農

左納基助  
外十七人

第五小区下吉富村

藤原 源蔵  
同 村  
藤原元右衛門

第十大区神西郡二小区下沢村

原田弥吉郎

田中村  
松岡 次平

同 村  
岩城 太平

谷 村  
田鍋太郎左之門

同 村  
竹内小七郎

同 村  
小室村  
古家岩次郎

同 村  
福田吉三郎

千原村  
楠 次郎左之門

同 村  
中山庄兵衛

罪按口招  
一、自分共儀、庄屋年寄勤役中、去々未年九月十七日、穢多平民同様之御告布ニ付、同廿一日屋形村会所へ村役人中集会、穢多是マテ通御据置被下度旨、元森垣、猪笹組ト一紙連印ノ歎願元生野泉へ差出候処、厚御理解之上御下ケ相成、同十月四日、再ヒ会所へ集会、是迄通穢多ト売買可致旨談致シ、同六日、小室村天神社へ小前惣代寄合候ニ付、急速差止、同七日会所へ打寄、惣代三人再ヒ歎願候処、御採用無之、其段小前へ申達置候事

一、同十三日、神東郡辻川村辺騷擾、同十四日、加勢ニ不出村ハ焼払、又ハ突殺杯流言有之、恐怖之余村々小前一同罷出候様及差図、自分共ハ屋形村会所へ駈付相談中、同御泉御官員同村へ御出張、無程一揆共押来リ強顔致ニ付、御指揮受、鎮静方心配致シ候へ共、力不及強勢ニ恐レ何レモ逃去潜居候処、右一揆共御官員殺害、翌十五日、生野鉾山寮御出張所放火、及乱暴候様成行、奉恐入候事  
右之通、相違不申上候、以上

明治六年

『内藤丈右衛門ニ同シ』

贖罪金五四二十五銭宛

余罪ハ輕シ、論セス』

播磨国第十大区神西郡

一小区森垣村農

小田久平

外七人

罪案口招

第一小区岡村

木下次右之門

同 村  
村岡 辰蔵

鍛冶村  
大京事

同 村  
大原常右之門

同 村  
藤田清右之門

同 村  
中野松五郎

同 村  
松本五郎右之門

一、自分儀、庄屋年寄勤役中、去々未年九月十七日、穢多平民同様之御告布ニ付、但州ハ既ニ歎願致ス趣相聞へ、当村々外八ヶ村役人、同廿日森垣村へ集会、同様可歎出ト談決、屋形組へモ打合、同廿三日、三組惣代ヲ以元生野泉へ歎願候処、厚御理解ノ上願書御下ケニ相成、其後諸方共穢多ト売買不致ニ依リ、触元森垣村元庄屋伊右之門ヨリ通達ヲ以テ、当村々モ小前中へ相触、同様商不致候事

一、同十月十三日、神東郡辻川村辺騷擾、同十四日屋形組村々暴起、御官員殺害、同十五日、加勢ニ不出村ハ焼払、突殺杯流言ニ恐怖シ、村中一同罷出候様及差図、竹槍鉄炮携、右一揆ニ加リ、生野へ押寄セ、及乱暴候様成行、奉恐入候事  
右之通、相違不申上候、以上

明治六年七月十五日

真弓村農

山田兵次郎

同

太田吉五郎

第四大区多可郡七小区猪笹村農

長井助右之門

大山下村農

中山勘右之門

同  
中島十左エ門  
大山中村農  
羽藤 平吉  
同  
戸田弥平治

他ノ村々ハ同十五日加党、生野へ罷越、亦ハ途中ヨリ脱ケ  
婦、奉恐入候事  
右之通、相違不申上候、以上  
明治六年七月十五日

『内藤丈右衛門ニ同シ』

贖罪金五円二十五銭宛

余罪ハ輕シ、論セス』

新野村農

市場弥太郎

福田惣次郎

美佐村農

田路紋次郎

永良 市蔵

比延村農

竹沢喜太郎

黒田 友蔵

第一小区上岩村農

黒田 武平

田中 喜平

寺前村農

藤原定五郎

井上 嘉吉

高朝田村農

藤原善五郎

松本喜一郎

播磨国第十大区神西郡  
二小区福渡村農

上月滝蔵

外三十六人

罪案口招

一、自分共儀、庄屋年寄勤役中、去々未年九月十七日、穢  
多平民同様ノ御布告有之、諸方人氣不穩、然ルニ当村ニハ  
何ノ故障モ無之候処、同十月十四日、近村ノ者及暴動、加  
勢不出村ハ焼払、突殺杯流言ニ恐レ、村中騒クニ付、暴動  
人ノ為焼払ハレ候テハ迷惑ト存、同十五日、一同へ申達、  
追々竹槍携差出候、尤福渡村元屋形村ニ被挾候村ニ付、無  
援近村ノ一揆ト俱ニ屋形村へ罷越、夫ヨリ生野へ随付、其

宮野村農

立石治郎八

小田原村農

岩城太三郎

森本弥平次

山内四郎平

犬見村農

小松繁太郎

芦田幾次郎

第九大区神東郡五小区福本村農

太平事 野太郎

袖口善太郎

栗賀村農

橋本治三郎

小林作次郎

中村農

松本 幸吉

飯尾 近蔵

小田村農

手塚 元衛

羽岡亀次郎

貝野村農

藤永文十郎

高橋与次郎

柏尾村農

太田与一郎

太田 嘉蔵

加納村農

松本金次郎

高橋 弥七

根宇野村農

岸田市十郎

岸田 九平

上吉富村農

松岡 新蔵

高橋与吉郎

『雑犯律不応為重キニ問ヒ、情ヲ量リ一等ヲ酌減シ、贖ヲ  
聴ス』

贖罪金四円五十銭宛』

播磨国第十大区神西郡

二小区小室村農

福田福之助

罪按口招

一、自分儀、去未年九月十七日、穢多平民同様ノ御布告ニ付、同十月六日、当村天神社ニテ村々惣代寄合ニ罷出、斃牛埋場并右御布告一件歎願、尚穢多強勢ナレハ相凶次第五ニ助ケ合候旨相談中、村役人ヨリ差止メ、一同致退散候事一、同十月十三日、神東郡辻川村辺騷擾、翌十四日、加勢ニ不出村ハ焼払、突殺ス抔流言有之、多人數右天神社へ寄集候ニ付、自宅有合ノ白木綿二墨ニテ、丸二両ツ引ヲ画キ、竹ニ結付、目印トシテ持参、一統屋形村へ押行候節、先ニ進ミ、誰所業共不存、元生野県御官員殺害、同十五日、生野エ随行ノ途中、若後レ候へハ突殺ト口々ニ申故、右目印取隠シ、鉾山寮放火乱暴ニ恐レ逃帰、奉恐入候事右之通、相違不申上候、以上

明治六年七月十五日

『旗幟ニ類スル目印ヲ携へ随行スルモ、近村ノ兇徒ニ脅誘セラル、ニ出ルヲ以テ、改定律例第五百二十二条附和随行シテ其場ニアリ勢ヲ助クル者違令重キニ問ヒ、贖ヲ聴ス  
贖罪金三円』

播磨国第十大区神西郡  
二小区鶴居村農

岩見 直蔵  
外十三人

罪按口招

一、自分共儀、去々未年九月十七日、穢多平民同様ノ御布告ニ付、同十月五日、鶴居村、今井村小前集會中、下沢村ヨリ組合村々惣寄合ノ儀申来、同六日、小室天神社ニテ七ヶ村惣代寄合、以来斃牛ハ村端ニ埋メ、且小前一同ヨリ右御布告一件歎願イタシ、若シ村役人不取次節ハ、幸旧知事様屋形村御泊リニ付、直願致ス可ク、猶奥向ニテ穢多強勢ナレハ、相凶次第下モ向ヨリ馳付、天神ノ鐘撞キ候ハ、奥向ヨリ馳付、互ニ助ケ合候旨相談中、村々役人ヨリ差止メ、一同退散致シ候事

一、同十三日、神東郡辻川村辺騷擾、十四日ニ至リ、加勢ニ不出村ハ焼払、又ハ突殺シ候抔流言有之、右天神ノ早鐘聞へ、村役人ノ差凶ニ依リ、銘々竹槍携干原村へ罷出、引返シ天神社へ輒集致シ候折節、元生野県御官員屋形村へ御出張ノ由承リ、多人數同道、強願イタシ、誰所為トモ不知御官員殺害、同十五日、俱々生野へ押行、鉾山寮御出張所放火ニ及ヒ候ニ恐怖、一同逃帰リ、奉恐入候事  
右之通、相違不申上候、以上

明治六年七月十五日

農 渡辺与右工門  
今井村農  
敦賀藤兵衛

『改定律例第五十二<sup>(百五十一)</sup>条、附和随行シテ其場ニアリ勢ヲ助クル者、違令軽キニ問ヒ、贖ヲ聴ス  
贖罪金二円二十五銭宛』

播磨国第九大区神東郡  
四小区屋形村農  
内藤吉兵衛  
明治七年一月二日瘧死

中野 利八

谷村農

原田 清蔵

賀岳井小八郎

田中村農

松岡 喜平

羽岡善右工門

岩田 房蔵

小室村農

高松 文吉

椿 久次郎

千原村農

安原信太郎

岩田 伝蔵

明石 鶴蔵

罪案口招

一、自分義、鶴居村立入庄屋勤役中、元屋形組十三ヶ村触元被相頼、御用向廻達仕来候処、去々未年九月十六日夜、生野表ヨリ当村元庄屋丈右工門義、穢多平民同様ノ御布告ニ付、森垣組モ歎願致ス相談ニ付、当組野村穢多エ布達以前ニ歎願ノ相談致候テ如何ト申手紙差越候へ共、頓着不致、即刻右御布告回達致シ候、然ルニ同廿日、鶴居村元年寄利平方ニテ、今井村元年寄喜一兵衛ニ出会候処、同村ニハ穢多多有之、元ヨリ重頭強情ニテ難扱、自今猶更心配致シ候間、村々役人中寄合歎願ノ相談致シ度相頼候へ共、海内一般ノ儀、逆モ相立問敷ト申聞候処、利平ヨリモ同様申立候故、其意ニ泥シ、明日寄合致セト申置候処、同廿一日、屋形村会所へ村役人集會、歎願ノ相談相決シ、右喜一兵衛案詞認中、森垣村元庄屋伊右工門ヨリ歎願打合セノ手紙到来、右丈右工門、喜一兵衛惣代ニ相頼、翌廿二日出立、森垣、猪笹、屋形ノ三組、一紙ノ歎願書元生野県へ差出候処、厚御理解ノ上御下ケ相成、同十月四日、村役人中又々会所へ寄合、再歎願ノ相談ニ付、最早此上強テ歎願可致筋ニ有問敷、且穢多ト是マテ通売買可致旨申聞置、同六日、旧知事様御巡回、当村御泊ニ付、村役人中相集候節、小室天神社へ組内小前大勢寄合居候趣相聞へ、早速村役人ヨリ差止メサセ、同七日旧知事様御立後、村役人中会所へ打

寄、今井村始小前一同人氣不治、具庁ヨリハ彼是申者可連  
 来ト兼テ御達モ有之候へ共、多人數連行候事モ不相成、当  
 惑ノ余リ任衆議、再歎願ノ及談決、同八日今井村元庄屋与  
 三兵衛外二人、当惣代御具庁へ差出候へ共、又々厚御理解  
 願書御採用無之、右三人帰村、其旨小前へ相達置候事、  
 一、同十三日、神東郡辻川村辺騒擾、火ノ手相見へ、十四  
 日組内村々騒立、小室天神ニテ早鐘撞、終ニ大勢屋形村へ  
 押来候ニ付、同御具庁官員出張御指揮相受、取鎮メ方及心  
 配候へ共、不及力潜居中、一揆ノ者御官員殺害、翌十五日  
 生野鉾山寮御出張所放火及乱暴候様成行、奉恐入候事  
 右之通、相違不申上候、以上

明治六年七月十五日

『村民ノ集合ヲ制止シ、且穢多平民同様ナル公布ヲ不快ト  
 ナシ嘆訴スルノ不条理ヲ説諭スルモ、力及ハス遂ニ不得已  
 再度ノ嘆訴ヲ聴スニ依リ  
 存命ナレハ呵責』

播磨国第十大区神西郡

二小区下沢村農

木村藤三郎

罪案口招

一、自分義、百姓代動中、去々未年九月中、穢多一件御布

告ニ付人氣不穩、同廿五日、屋形村会所へ参り候節、村吏  
 中集会歎願ニ及ヒシ処、御理解ノ上御下ケニ相成候趣承  
 リ、同十月四日、元庄屋治三郎同道、会処エ罷出、是迄通  
 穢多ト商可致旨相談致シ、翌五日小室村天神社へ村々小前  
 集会ノ趣承リ、俱々差止メ、同七日村吏中会所へ打寄相談  
 ノ上、惣代トシテ今井村元庄屋与三兵衛、鶴居村元寄利  
 平ニ付添、元生野具へ罷出、再歎願ニ及ヒ候事  
 一、同十三日、遠方親類へ罷越、十四日帰村、所々騒擾ニ  
 付、右天神社屯集ノ者取鎮メニ参り候へ共、不及力、其後  
 屋形村へ馳行心配中、一揆押来リ、乱暴ノ勢ニ恐レ一旦逃  
 歸リ、猶又会所へ罷出、御官員ノ横死ヲ聞、彼是世話イタ  
 シ候中、一揆共生野鉾山寮出張所放火乱暴ニ及ビ候様成  
 行、奉恐入候事

明治六年七月十五日

『村民ノ集合ヲ止ムルモ、再嘆訴ノ為メ具庁へ随行スルニ  
 依リ  
 呵責』

播磨国第十大区神西郡

二小区鶴居村農

渡辺庄三郎

罪按口招

堀 儀三郎  
堀 房次郎

罪按口招

一、自分義、去々未年九月十七日、穢多平民同様ノ御布告  
 有之、歎ケ敷存候所、同十月十三日、神東郡辻川村辺騒擾  
 十四日近郷村々騒立、村方一同罷出候節、自分ハ玉葉無之  
 鉄炮携随、誰所為共不知、屋形村ニテ御官員殺害、同十  
 五日一統生野へ押行キ候ニ付、俱々罷越、鉾山寮出張所焼  
 失ニ恐怖、逃帰ル途中、生野町字サイノキニテ草鞋紐結候  
 後ヨリ、人不知風呂敷包投付、内ニフランケット一木、綿  
 染地肌着一、烟草入ニ有之、持帰候、其後暴動之者御糾  
 中、御官員へ菓子料差上候へハ、御憐愍之御取計モ可有之  
 ト存、諸人出金相勸候へ共、差出候者無之、元生野具ニテ  
 自分入牢中、右持帰品妻ヨリ申出、御引揚相成、奉恐入  
 候事

右之通、相違不申上候、以上

明治六年七月十五日

『改定律例第百五十二條、附和随行シテ其場ニアリ勢ヲ助  
 クル者、違令輕二問ヒ  
 贖罪金二円二十五銭  
 遺失物ヲ拾ヒ届ケ出サルモ、妻ノ代首スルヲ以テ、  
 其罪ヲ免ス』

其罪ヲ免ス』

播磨国第十大区神西郡

二小区下沢村農

一、自分義、去々未年九月十七日、穢多平民同様之御布告  
 ニ付、外村ニテハ穢多ト売買不致、本家吉太郎ハ従前通商  
 ヒ候ニ付、人氣ニ障リ、無抛相止メ候処、同十月五日、村  
 役人ヨリ売買可致旨達有之、尚穢多大勢押来由相聞へ、吉  
 太郎苦情切迫ニ付、村中寄合相談致貫度任頼、同日村内菓  
 師菴へ集会相触、其他ハ周旋不致候事  
 一、同月十三日、神東郡辻川村辺騒擾、翌十四日近郷村々  
 暴動ニ付、自分モ竹槍携、屋形村并生野へ随行致シ、奉恐  
 入候事

右之通、相違不申上候、以上

明治六年七月十五日

『渡辺庄三郎ニ同シ  
 贖罪金二円二十五銭宛』

播磨国第十大区神西郡

二小区下沢村農

史料二 播但一揆について飾磨県から太政官に  
報告 明治四年一月二八日

(『公文録』辛未二月 諸県の部全)

元姫路県ヨリ去月二十四日御届以後、同県下項民  
暴挙事件及鎮静候御届

但、顛末略記一綴、告諭書一綴、項民形  
合書共添

去月二十四日第四字後、今日に至候迄、何等ノ挙動モ無  
御坐候、尤モ兼テ申上候通り、民心稍相和キ候機ニ乗シ、  
無間断別紙告諭書意味合ノ通り、懇々面諭仕候通り、弥以  
悔悟謝伏ニ及ヒ、爾来御年貢米等専ラ收納仕罷在候、前件  
項民暴動及鎮静候ニ付テハ、奸魁主謀ノ者精々取札、詳細  
ニ御届可申上ノ所、別冊顛末略記ニ申述候如ク、即今ノ処  
ニテハ巨魁ト申程ノ者モ無之哉ニ相聞ヘ申候、付テハ要ノ  
元穢多ト同籍ヲ憤リ、浮説訛言ニ動揺シ、党ヲ結ヒ、類ヲ  
引キ、哀訴歎願可致云々申談、同盟ノ内誰ニテモ主謀ノ罪  
科ヲ蒙リ候節ハ、一同同様罪咎ヲ受ケ可申トノ意ヨリ、所  
謂僉連判ト唱ヘ候誓紙ヲ造リ、兄弟同服ノ誓約致シ候儀ニ  
有之候処、不凶モ人氣沸騰シ、辻川組大里正ノ倉庫ヲ焼  
キ、其ヨリ隣郡ニ波及蔓延及暴挙候儀ト奉存候、乍去即今  
罪魁搜索ハ勿論、百方捕縛ノ者糺弾仕、重立候者形合書一  
綴相添御届申上候、此後尙シ巨魁首謀ノ者ヲ獲候ハ、早

モ同一定トナルヘシ、故ヲ以テ当年ノ租税来年ヲ待チ上  
納センナト云ヒ、或ハ牧牛馬ノ調ハ、有余ヲシテ外国ニ  
輸出セラレン、異邦ノ食糧ニ充シメンナト、或ハ近ク檢  
地有之候由、逆モ爰両三年中ニハ、小前ノ者産業相立兼  
可申ナト、無端ノ浮言尚數多アリ

一時民心相倍シ、遂ニ沸騰、瞬息ニシテ南北數郡ノ擾乱ヲ  
醸シ候儀、實以意外ノ至奉存候、楮右頭民ノ所業、其一ハ  
大庄屋當節庄屋副長ノ居宅ヲ放火シ、郷村高帳等焼亡、其二  
御揭示ノ御高札ヲ破却シ溝渠ニ埋メ、其三渠下南北ニ造築  
スル所ノ開拓生産等ノ両官舎ヲ放火シ、其四説諭ノ官員ヲ  
劫シ刺ントシ、其五大小庄屋ノ蓄金・税米ヲ焼、倉庫ヲ毀  
焚ス、實ニ乱民叛逆ノ名ヲ免カレサル次第、暴動ノ極ト  
奉存候、依テ過日来逐一搜索ヲ遂ケ、捕縛糺弾罷在候ヘト  
モ、今以主謀ト申程ノ罪科無之、全ク前件ノ通り穢多平民  
同籍ノ理ヲ解セス、且無謂訛言浮説ヲ信シ、遂ニ如此暴挙  
ニ及候儀ト奉存候、右ニ付官員度々出郷、廻村ヲ為シ、今  
日ノ理勢ヲ説キ、朝廷至大至重ノ御仁恤、下民御愛憐ノ歎  
慮深クアラセラレ候儀ヲ第一ニ申シ諭シ、次ニ下民トモ御  
布令ノ趣ヲ謬解シ、終ニ疑惑ヲ生スルニ至ルノ件々ヲ明カ  
ニ弁解シ、万事朝廷ノ有難キ御旨趣ヲ遵奉シ、県庁ノ令ニ  
乖カス、努メテ御国ノ御為トナルヘキ儀ヲ心掛ケ、此御国  
ニ生レテハ先祖代々數千歳ノ御鴻恩ニ報ヒ奉リテ、神州ノ

々御届申上、罪ノ科ニヨリ処刑ノ儀モ相伺可申候ヘトモ、  
先以儘ニ鎮静仕候ニ付、此段御届奉申上候、以上

辛未十一月廿八日

史官 御 中

飾磨 県

元姫路県項民暴動顛末記略

元県下郷民ノ儀ハ、積年何等ノ強願モ無之、農事励精、各  
其業ヲ重シ、頗ル良民トモ称スヘキ程ノ儀ニ御坐候処、  
豈凶ン今般ノ一挙ニ相運ヒ候次第、素ヨリ官員兼テノ教諭  
方不行届トハ申ナカラ、畢竟ハ無知固陋ノ項民、御政体ノ  
御旨趣ヲ洽ク了解致シ兼候ヨリ、今般被仰出候穢多平民同  
籍ヲ憤リ、右県貢米科目ヲ羨ミ候等ノ機ニ乗シ、何者トモ  
知レス謂レモ無キ訛言浮説ヲ申出シ

右訛言浮説ト申ハ、今度穢多ノ称廢セラレタルハ、正シ  
ク記スルモ恐多キ儀ニ候ヘトモ、政府ニ異邦ノ婦人アリ  
テヨリ、平民ハ必ス穢多ト縁組スヘキ御法則トナリタリ  
云々、或ハ戸籍調ノ大意ハ、辰ノ歳出生ノ者ヲシテ外国  
ニ売ラル、ト云、又膏血ヲ絞ラル、ナト、或ハ尾州ト人  
民入替ニ相成候由、斯ル迷惑ナル儀モ、旧知事様サヘ是  
迄通り被為居候ハ、無ルベシ、今一度旧知事様御惣容様  
トモ御帰国有之タシ云々、或ハ他県下ニハ童兒外國人ニ  
既ニ盜マレタリ云々、或ハ旧県貢米ノ御規則、不遠新県

良民トナリ、從來ノ如ク専ラ励精職業ヲ重シテ、向後他  
県ノ模範トモ相成ヘキ様、種々説諭ヲ加ヘ候処、追々悔悟  
謝伏致シ、即今平常ノ如ク鎮定ニ相成申候

神東郡辻川組

田尻村

榮 藏

右ノ者儀、先年中八十島ト名乗り、相撲渡世ノ者ニ有之候  
処、元水戸藩ニ被抱、明治元戊辰年伏見變動以來所々戦争  
ニ携リ、遂ニ箱館ニテ降伏、其後朝廷ヨリ御赦免ニテ帰国  
致シ候ニ付、生所右村方ヘ為致帰籍罷在候処、此度元県下  
郷村挙動ノ儀、右榮藏、甘地村源太郎、山崎村国五郎等巨  
魁ノ趣相聞候付、三人トモ捕縛取札候処、源太郎、国五郎  
儀ハ別紙ノ通相聞ヘ候、榮藏儀ハ、去ル十月十三日同村円  
乗寺ニテ、郡市掛大属人別改之節、旧穢多トモト同席イタ  
シ候儀何トモ數ヶ敷旨、村方一同前日寄合相談シ、田尻村  
庄屋ハ其趣申立候処、庄屋ヨリ郡市掛リヘ右ノ趣取次願出  
候間、当日村々重立候者連レ立、辻川組大庄屋所ヘ罷出候  
様申聞候故、右榮藏儀モ庄屋同道大庄屋所ヘ罷出候処、穢  
多平民同籍ノ儀御布告ノ趣、郡市掛官員ヨリ誠精理解承リ  
候ニ付、村方ヘ引取、小前ノ者トモヘ申聞、一同承知ノ  
上、村方円乗寺掃除等致シ、穢多庄屋ハ別段床机ヲ据ヘ、

敷キ、其上ニ置候積一決致シ、待居候処、追々人別改運刻ニ相成、遂ニ及薄暮、改モ延引ニ相成候趣達シ有之、然ル処、多人數大庄屋門先へ竹槍ヲ持詰掛居候趣、右栄蔵間附、大庄屋所へ參候処、出張官員ヨリ一同ノ者ヲ取鎮候薄縁ヲ様申付候ニ付、門前へ罷出取鎮掛候処、右ノ頬竹槍ニテ被突、其儘帰宅致シ候由、夫ヨリ多人數大庄屋家宅及乱暴、尚土蔵一ヶ所焼失為致、夫ヨリ須加院組大庄屋ヲ及焼失、是ヨリ二手ニ相分レ、町村大庄屋所へ罷越候者モ有之、一手ハ神東へ涉リ、太尾組大庄屋所ヲ及焼失、夫ヨリ御立組大庄屋所ヲ放火致シ、猶人參製役所へ火ヲ掛ケ、山崎組大庄屋、辻川組大庄屋居宅焼残候ヲ焼払、田尻村、大貫村辺へ罷越候由承リ及候ニ付、右村々隣村ノ儀故放火為致候テハ不相成ト存、近村ノ者トモ引連レ、西光寺野迄到リ、下手ヨリ大勢相集居候村々ノ者トモ重立候者ヲ一ヶ村ヨリ一兩輩ツ、呼寄、左屯所目印ニ竹槍ニ手拭ヲ結付、其場へ相集リ、是ヨリ上手へ參り候ニハ不及、兵庫県出庁社村へ參リ、穢多一条可及訴訟旨一統へ申聞候処、多人數ノ者トモ此儀致承知、已ニ社村道筋へ參リ掛候者モ有之候処、元当県ヨリ出張ノ兵員追々相進候ニ付、多人數ノ者一同逃散候儀ニ有之、尤栄蔵儀穢多平民同様ノ儀幾重ニモ歎願致度所存ニ相聞候ヘトモ、暴動ニ及ヒ候趣、只今ノ処ニテハ相聞へ不申候

元姫路県

刑法懸

神西郡山崎組

甘地村

源太郎

右ノ者儀、小前ノ者ニハ候ヘトモ、此度ノ儀ニ付テハ、村方ニテ重立居寄合等ノ節ハ不絶罷出、同村太右衛門案文取極候後、右源太郎傘連判ヲ發言致シ、右ハ後日吟味等ニ相成候節ハ、頭分ノ者不分様致シ候勤考ノ由、其後山崎組中寄合ノ節、右案文共傘連判ヲ以、遂ニ二十六ヶ村互ニ為取替致候儀ニ相聞へ候、傘連判別紙ノ通

神西郡山崎組

甘地村

五人組頭

太右衛門

同郡同組

奧村

五人組頭

新次郎

右ノ者トモ儀、去月二日頃ヨリ、同組近平村・甘地村・坂

戸村・奥村四ヶ村、氏神大宮ト相唱候宮へ寄合致シ、尤其趣意ハ、先般穢多平民同様ノ御布告ニ付、従前ノ通區別ノ儀歎願致度、且戸籍調并ニ牧牛馬員數書出シ等ノ儀ハ、人・牛トモ石高ニ付異人へ相渡シ候様ノ風聞有之候ニ付、旁寄合致シ、且旧穢多ハ何品ニ不依一切売買等不致約定ヲ立、尚旧穢多トモ自然押領致シ候節ハ、四ヶ村互ニ助勢致シ合候趣ニテ、家並ニ竹槍ヲ取捨置、尤約束固ノ為メ、四ヶ村為取替一札致シ候示談ニ相成候処、右太右衛門發言ニテ案文取捨、左ノ通

同村

国五郎

為取替一札ノ事

一、菅服兄弟同心ノ契約仕候、毛頭相違無御坐候、為後日善事可相守候、依テ如件

山崎組同村

組中

甘地村中様

右ノ通發言致シ、甘地村丈吉ニ為認、其場ノ連中へ為致一見候処、右新次郎可然旨申之ニ付、一決致シ、村々へ引取候上、相認候儀ニ御坐候

元姫路県

刑法懸

神西郡山崎組

右ノ者儀、今般郷村動揺巨魁ノ趣相聞候ニ付、召捕取札候処、去ル九月晦日、同村庄屋兼戸長小国鉄十郎方へ、元穢多同郡戸板村源四郎、并ニ仲次郎伴兼二郎兩人、戸籍一条ニ付罷越、上リ口へ腰掛、素人同様ノ致シ方ニ付、他家ニ於テ右同様ノ振合ニテハ争論ニ可及ト存シ、色々庄屋ヨリ理解致シ候処、何分天朝ヨリ被御出ノ儀ニ付、是迄通ニテハ御布告ニ相背候ニ付、兩人上ニテ即答難致、村方へ引取評議ノ上、何等ノ儀可申出趣相答、立帰候ニ付、同日戸板村取次甘地村庄屋、馬田村取次神谷村庄屋、近村ニテ福田村庄屋等山崎村庄屋所へ呼寄、右穢多ノ始末ニ付、彼是相話候折柄、右国五郎モ五人組ノ事ニ付參居合、何卒一統へ理解致シ貫ヒ度相談致シ、右ニ付近村馬田村へ為重者一兩人呼ニ遣シ候処、則同村政次郎ト申旨罷越、国五郎ヨリモ段々理解致シ候ヘトモ、前同様天朝ヨリノ被仰出ニ付、是迄通リト申事ニテハ御布告ニ相背候趣申張候故、最早此上ハ致シ方モ無之、兼々小前ノ者トモハ其同籍ノ儀ヲ相數キ、歎願差出シ貫度旨申之、寄合致シ候事モ儘有之候、然ル処、去月十三日、人別改ニ付、郡市掛リヨリ神東郡辻川組大庄屋所へ出張、山崎組ハ屋後改ニ付、山崎村平蔵ト申者、改ノ場所へ模様聞合ニ可參積リニテ、神東郡井ノ口村

ト申所マテ罷越候処、同村西川辺村刃ノ者申ニハ、神東郡ニテハ田尻村八十島ト申者頭取ニテ、竹槍等ヲ携ヘ可參旨申、尚其節ニテ同人申候ハ、神西郡ノ村々不參候ハ、焼捨候杯ト申ニ付、直様帰村、国五郎へ右次第世話候処、同人儀、兼テ町村組ニテモ穢多一条ニ付寄合致シ候趣承リ居候ニ付、俱々多人数ニテ歎願致シ候ハ、聞届ニモ可相成ト存付、飾西郡松ノ木辺へ通達致シ候処、右村々同意ニテ、外多人数辻川村へ寄集、人氣相立候場ヨリ、遂ニ騒擾ニ相成候儀ニテ、元來ハ国五郎儀、馬田村元穢多トモト談判ノ儀ヨリ相起リ候儀ト相聞へ候

元姫路県

刑法掛

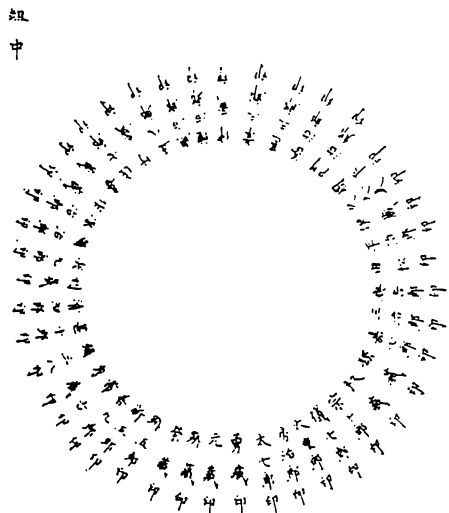
為取替一札ノ事

一、宍腹兄弟同心ノ誓約仕候、毛頭無相違御坐候、為後日

善事可相守、依テ如件

明治四未年

山崎組坂戸村



告諭書

告諭書

凡ソ皇国ニ生レ出タル者ハ、誰モ々々ソノ職業有テ、皆々コレヲ重ンジ勤メテコソ一生ヲ目出タク終ルモノナレ、其職業ヲ重ンスルトイフハ、士族ハ士族、平民ハ平民ノ職業有テ、別ニ手段ノ有事ニハ非ス、是等ノ事業ヨリ当管下ノ郷民一同能々弁別シテ居レバコソ、カク迄百数十年ノ間静謐ニシテ、上下親シミ睦マシク、上ニモ暴政ナク、下マタ強願トテ強テナラヌ事柄ヲ願ヒ出タル事モ無ケレ、早魃水損ニハ、夫々哀憐救助トテ救米救金ヲ施シ、平日トテモ困迫ノ者トモニハ、必ス上ヨリ厚ク憐愍ヲ加ヘシヨリ、下ニテモ益々農業モ骨折励ミ、礼節恩義モヨク弁ヘ、豊年ノ秋ニハ各官へ献米モイタシ候程ノ事ユヘ、実ニ皇国ノ中ニテモ、別テ当管下ノ民ハ殊ニ良民ナリトテ、他所他郷ニモ羨ミ誉ソヤシタル程ノ事故、自然朝廷へモ通り、数百里ノ外ニモ能ク人ニ知ラレ、ヨキ国ヨキ郷ト誉ラレタルコト也、然ルニ此度ノ事柄、卒爾ニ不法窟忽ヲ仕出シタル事トハ申ナガラ、思ヒモヨラヌ事トモナリ、別テ当年モ豊饒ニテ、

五穀ノ実ノリモヨク、世ノ中静謐ニシテ何一ツノ不足モナキニ、此頃下々ニテ言ヒハヤス事柄ヲ、試ニ一ツニツヲ挙テ告ケ諭スナリ、孰レモヨク聞キ、ヨク弁ヘクレヨ一、穢多ト同籍ノ事

此儀、只一通リ人別ヲ共ニト申テハ心ヨキ事ニハ有マジク聞ユレド、元來旧穢多トテモ、禽ニテモナク、獸ニテモナク、同ジ御国ノ民ニシテ、同ジ土地ノ水ヲ飲ミ、同シ御慈悲ヲ蒙リタル物ナレバ、別ニ怪有ナル事ノ有ベキ筈ナシ、別テ人間ノ有用ナル皮革ノ製作ニハ、年來手馴居リ、又農業モ励ム事ユヘ、今般朝廷ノ有ガタキ思召ニテ、一視同仁ト申テ、広大ナル御慈悲ヲ下シ玉ハリタル事ナリ、サレドモ、是迄人ノ嫌ヒタル汚穢キ事柄モ、マ、無ニシモ有ラサル故、此程モ達シタル通り、旧穢多トモハ別段ニ示シタル也、夫ハ先ツ第一ニ、朝夕ノ掃除ヲ能ナシ、獸類ナド取扱フタラハ能々身ヲ清メ、平日モ成ベキ丈ケ奇麗ニ身ヲ持テ、臭氣ノナキ様ニ、中ニハ布巾ト雜巾ヲ一所ニ用ヒ、雪隠ノ古板ヲ竈所ニテ焼キ、鍋ニテ手足ヲ洗フトイフ様ナル事ハ決シテ有マシキ事、人ニ応接トイフテ物イヒカハスニモ、前々ノ身分ノ程ヲ考ヘテ、少シモ重頭ニナキ様、身分ヲ引下ケ万事ヒカヘメニ致セヨト、此度申聞タル也、依テ旧穢多トテモ、能道理ヲ弁ヘタル物ハ、別段愛ニ意ヲ配テ、今日ノ所業業

人ノ行状ヨリ一段叮嚀奇麗ニイタス筈ノ事也、別テ此度御歴々ノ旧御公卿様、旧御大名様ニテモ、平民ト縁組勝手次第ト仰出サレ候事ニテ、上ヨリモ下リ下ヨリモ上リタル事ナレバ、穢多ガ素人ニ成タレバトテ、何モ左マテ強訴イタスベキ程ノ事ニモナク、尤穢多ト婚姻ヲセヨトノ事ニモナク、今日ヨリ友達ト成テ別段懇意ニイタセトノ事ニテモナシ、又此郷ニコソ其様ナ心狭キ事モイヘ、此地ヲ放レ他国ニ行時ハミナ一様ニテ、寝食モカハリナク、是迄迎モ旅籠屋ナドニテハ、ヨク人ノ申ス通り、知ラズハ穢多ノ下坐ニ坐リ、穢多ノ喰サシモ又喰フ様ナ事モ有ベシ、サレドモ是ヲ快トヲモハヌハ元来此国人ノ性質ニテ、清潔ヲ好ムハ実ニヨキ事ナレドモ、此儀ニ付テ彼是不平ヲ抱キ、乱暴ノ所業ニ及ブハ決シテ有マジキ事ナリ、前ニイフ如ク、朝廷ノ広大ナル御趣意ヲ我心トシテ、只々恭順ニシテ職業ヲ勤ル是則良民ト申スベク、此御国ニ生レ出タル甲斐モアリテ、民ノ職分ニモ適ヘリトイフベシ

#### 一、戸籍調、番号ノ事

是ハ去ル午年中、皇國中夫々管下ニハ、華族ト申テ元御公家様、元御大名様ハ幾人、士族ガ幾人、社寺ガ幾人、平民ガ幾人ト予メ書出候様仰セ出サレ候処、今年弥其御編制ト申テ、大キナ御帳面ガ出来ル事也、是ハ御触ニモ

是ハ、当管轄組々郷村ヲアツカリテ政事ヲ施コセト仰セ出サレテヨリ以来、何事モ当役所ノ勝手ニハナラズ、別テ御年貢ノ事ナドハ第一ニ大切ナル重キ事ニテ、一粒モ半粒モ忽ニハ取扱ノ出来ヌモノユヘ、万事朝廷ノ御差図通りニイタス事ナリ、依テ是迄ノ県々ハ簡様々々、今度ノ新ラシキ県々ハ簡様々々ト、別テ御布告書御渡シニ成タル事ニテ、ソレハ別ニ御達書アリ、其大意ヲイハバ、御年貢ノ儀急々ニ改メテハヨロシカラス、故ニ当年ハ旧貫ニ依ルト申テ、本ノマ、ニテ納メサセ、来ル申来三月迄ニ、租税取収メ方ノ儀、是迄ノ仕来リ、夫々委細ニ取調ヘ伺出ベク、当年ハ何モカモ別ニ変ヘ直ス間敷旨仰出サレタリ、依テハ、イヅレ来年御年貢納迄ニハ、屹度大御評議モ有之、府県同一ノ御規則相立可申候也、然ルニ、尚又数日前ニ御達書到着、夫米永銭ハ先ツ不取敢御座メ被下タル事、実ニ難有トイフモ余リアル事ナリ、扱是ハ当月十三日、東京ヨリ来タル御触ナリ、尚右御年貢米、当年ハ是迄ノ通りニセヨトノ御布告書ハ、去ル七月二十九日ニ着致シタルナリ、ソノ御本書ハ県庁ニアリ、扱元来百姓トイフ文字ハ、大御宝トヨミ、又民ハ是国ノ本トモ申テ、別テ大切ニ御アシライ遊バサル、身分也、サレバ各其身ノ職分ヲ尽シテ、何レモ昼ハ耕シ、夜ハ縄ナヒ、葎織テ、男ハ勿論、女子トテモ、夫々ノ営ミアリ

有通り、人生レテ、其始メ終リ程大切ナル事ハナシ、夫レ故、今日人間ニ生ラ受ルモノハ、一人残ラズ朝廷直々ノ御帳面ニツキテ、モシ非命ニ死スル時ハ、別シテ御不便ヲ加ヘサセラレ、其由ヲモ石碑ニ記ス様、又御帳面ヘモ其事ヲ書載スル様ニトアリ、元来人トアル人ノ限リハ、皆人別名前ヲ毎年十二月ニ其管轄々々ニテ調ヘコシラヘ、六年目々々毎ニ恐多クモ朝廷ヘ差出シ候様相成タル事ニテ、実ニ人間程、此世ノ中ニ大切ナル物ハナキ重キ物トイフ事ヲ、一人モ洩レズ承知スル様ニ成シ下サル厚キ朝廷ノヲホシメシニテ、禽獸ト異ナル所ヲ示サル、事也、去ルニ依テ、一軒毎ニ何番々々ト番号ヲ立テ、毎年十二月ニシラブル為メニ、其生レタル月日モ書出シ候様御取扱ニ相成タルナリ、且番号ヲ嚴敷スレハ、浮浪人、アフレ者、盗人等隠レ居ル事ナラズシテ、大ニ平民ノ益ニ成ルコトニテ、深キ御憐愍ヨリ出タル儀ナリ、扱又何国ノ郷ノ者モ、生ルレハ朝廷ヘ届ケ、死ナバ又朝廷ヘ届ケルトイフハ、誠ニ難有御メグミニテ、此有ガタキ御メグミニ洩ル、事ナキ様ニトノ御編制ノ御帳面ナリ、又此戸長トイフモ、只仮初ノ儀ニハナク、皇國中朝廷ヨリ仰付ラレタル重キ御役ナレバ、イカニモ尊敬ヲ加フベシ

#### 一、御年貢米ノ事

テ、四季トモニ暇ナク、此世ノ中ニ繁忙職分ユヘ、幼稚ヨリ物学ビ手習フ間モナク、別テ辺鄙ニハ物教フル師匠モ乏シクシテ、自然理非分別モ疎ク、動モスレバ頑固ト申テ片意地ノ族モアル習ヒナレバ、追々ト其道モ説聞ケ、今日ノ形勢モイヒ聞カスベシ、先ツ第一ニ、今日安穩ニシテ各其職分ヲ尽スニ付テモ、恩義ト申儀ヲ能ク朝夕ニ弁ヘネハナラズ、扱其恩義ト申ハ、天ニ日アリ月アリテ、此地球ト申世界ヲテラシカ、ヤカセラル其御蔭ニテ、人モ出来、又米穀モ何モカモ成就スル事ナレハ、此御蔭ヲヨクヨクヲモハネハナラヌ筈ナリ、然ルニ、此難有キ御恩ヲ何トモヲモハヌトイフハ、恩ニ狎テ恩ヲ弁ヘザルノ至リニテ、今日ノ罪ナリ、且日月ナクハ国土モ闇ナリ、然シテ此上ノ御恵ト申モ、此日月ノ御恵ト同シ事ニテ、泰平ノ御世ニ生レ合セ、各心ノ儘ニ耕シ耘リ、十分ニ五穀ヲ培養イタシ、其身ハ勿論、妻子トモ迄不飢、不凍、安楽ニ暮ス事、限りモナキ上ノ御大恩ト申者ナリ、シカルヲタマニモ此御大恩ヲ忘ル、族ハ、則チ日月ノ恩ヲ忘ル、ト同シ事ニテ、恩ニ狎テ却テ恩ヲ弁ヘタトイフモノ也、能々此所ヲ分別シテ見ヨ、乱世ノ時節ニ生レ合セたらハ、年中破裂丸トテ鉄砲玉ノ中ニ生活シテ、心ノ儘ニ作り方ノ相成ヘキヤ、妻子一所ニ暮スヘキヤ、能々此筋ヲ相考ヘ、合点シテ日月ノ御恩ト朝廷県庁ノ御



恩トハ同シ今日ノ御大恩タル事ヲ知テ、努々忘却イタサス、農業大切ニ出精イタスベシ、猶又此度朝廷ヨリ夫米御免除相成タルハ、大ナル難有事ニテ、寔ニ寛大ナル御制度也、元来夫米トイフハ上古庸役トイフ物ノ事ニテ、同シ御年貢ノ事ナリ、此御年貢中ニ租庸調トイフ三ツアリテ、租ハ今ノ御年貢米ノ事、庸トイフハ則チ一村二何人ツ、無賃ノ人夫ヲ出ス御制度ノ事ニテ、ソレヲ米ニシテ夫米ナリ、又古来調トイフガ有テ、イツレモ布帛ヲ納ル事モ有リタリ、今ノ小物成トイフガ則チソノ形チナリ、此様ナルユルヤカナル難有御制度ヲ能々弁へ、常々御高札ノ表ヲカシコマリ候ハ勿論、兎角ニヨロシカラザル事ニハ、人ノ心移リヤスクシテ、後大ナル災害難義トナルヘキ事ヲ、兼々銘々ノ心々ニ戒メテハキ事第一ノ心得タリ、クレグレモ前後大切ニ心附ベシ

一、旧知事様ノ事

先般東京へ御帰リアラセラレ候ニ付、一同御別レヲ惜ミ、種々歎キ候事ハ、実ニ人々固有ノ本心ニテ、誰トテモ左様ニ有ベキ事、此長キ百数十年間、御厄介ニ相成、十分ニ御恩沢ヲ蒙リタル事ナレバ、身ニシテ御別レハ惜シキ事ニテ、諸共ニ涙ヲタレタル事也、サリ逆モ又再ビ爰許へ入ラセラレシトハ申サレヌ事也、尤此土地計テモナク、是モ又朝廷ノ仰セ出サレニテ、何国ノ県々モ一様

物モ何モカモ、朝廷ノ御物ナリ、生レ落レハ天子様ノ御土地ノ水ニテ洗ヒ、上ラレ死スレハ、又御土地ニ葬ムラレ、生涯此様ナル有カタキ御恩沢ニ浴スル事故、常々朝廷ヲ厚ク存込、御触出シノ趣ヲ飽迄モ畏リテ、努々ワロソカニスベカラス、然ルニ、中ニハ大ニ不心得ノ兇徒ガ在テ、今日ノ御政弊ヲ悪シサマニイヒナシ、露ホトモナキ事柄ヲ、箇様々々ノ御達ト、種々様々ニ浮説造言ヲ言ヒ触シタルハ、高百石ニテ牛一匹出スノ、或ハ尾州名古屋へ村替ノ、或ハアメリカカへ行ノ、穢多ト縁組ヲスルノ、戸籍調ハ何ノ年ノ兒女ヲ出スタメノ、或ハ血ヲ絞ラル、ノ、或ハ外国人ニ地所居宅ヲ取ラル、ノト、今日難有御恩沢ヲ蒙リナカラ、箇様ナ無根トイヒテ影モ形モナキ難悪言ノ噂ヨリ、アツタラ是迄ホメラレタル所謂良民ガ、フト心迷ヒカシタ事ト見ユル也、何卒ソノ様ナ根モ葉モ分ラヌ戯言ニハ、夢々迷ハヌヤウニイタスベシ、別テ此度暴乱ニ及ビシ村々ノ者ドモモ、元ノ真実ノ良民ニ立チ反リ、其邪ナル心ヲ改メ呉レヨ、実ニ改心悔悟イタス上ハ、其巨魁張本人ハ差許シ難ク候ヘトモ、其他煽動セラレ、止事ヲ不得騒立候者トモハ、格別ノ憐愍ヲ以テ前罪ヲ免シ遣ス程ニ、一同死スルヲ生シ、骨ニ肉ツクル儀ト難有存シ、向後万事郡市役所ノ掟ヲ守リ、農事励精、再生ノ恩ヲ謝スベシ、尤近年ノ総テノ御触面ハ、文

ニテ、イツクノ旧知事様モ、同ジ様ニ東京へ御帰リ遊ハサレタル事ナリ、且旧知事様東京御発途前申出ラレタル御告諭書ノ通り、各其職分ヲ守リ、平民ハ農作ニ精ヲ出シ、朝廷へ御年貢米ヲ納候ガ則チ旧知事様へノ御恩報シト申物ニテ、旧知事様モイカ計カ御喜ビ遊ハサルベキ、然ラズシテイツ迄モ旧知事様ノ御別レヲ惜シミ、彼是申候テハ、旧知事様ノ御為ニヨロシカラス、御顔ニ泥ヲヌスルト同様ニテ、俗ニ申最良ノヒキ倒シト申モノナレハ、此儀ハヲモヒ止ムヘキ事ナリ、カヘスカヘスモ朝廷ノ仰出サレナレハ、何事モ一人々々ノ心ノマ、ニハナラヌ訳アリ、ソハ如何ニトイフニ、此世界ガ開闢トテヒラケソメ出来ソメタル昔ヨリ、此御国ハ殊ニ尊ク、天子様ハ数千年ノ昔ヨリ、御国ノ出来タル始ヨリ、一天万乗ノ大君ト申テ、世界中ニ二ツトナキ尊キ有カタキ事ニテ、現神トモ申ス也、現ツ神トハ、目ニ見ユル神様トイフ事ニテ、ソコデ此国ニアル余ノ人々ハ、皆コトコトク臣ト申テ、御家来デナキモノハナク、目鼻ノアル人間ハ、天子様ノ御子ノ様ナ物ナレハ、一人々々互ニ親切ニイタシアフガ則チ天子様へノ忠トイフモノ、只私勝手ニ兎ヤ角ヤトイフヘキ物ニアラス、又此御子ノ様成人間ヲ始トシテ、山モ海モ川モ里モミナ、天子様ノ御坐マシマス朝廷ノ物ナレバ、此土地ニアリトアラユル物、食フ物モ衣ル

字モ詞モムツカシク聞ユルナレトモ、別ニサマテムツカシキ事ニモアラス、能味ヒテヨク読メハ、余程前方ノヨリハ可憐深切ニカ、レタル事也、サレトモ、元来文字ヨムガ職分ノ民デモナキユヘ、以来ハムツカシキ文字ニハ、一々カナヲツケテ渡スベシ、夫ニテモ猶分リ難キ事ハ、トコ迄モ尋ネクレヨ、細カニ言ヒキカスベシ

一、牛馬ノ事

此ハ、既ニ承知ナルベシ、牧牛馬畜殖ト申テ、村々郷々牧ノアル所ノ牛馬ノ事ニテ、農作ニ遣ヒ候牛馬ノ数ヲ書出シ候儀ニハ無之事ナリ

但平仮名附

元姫路県頭民暴動一件書類、飾磨県ヨリ差出候ニ付相回シ候、此事件ニ付テハ、大隈参議ヨリ御達可申儀可有之間、予テ申入置候也

辛未十一月廿九日

史官

大蔵省御中

追テ、一覽済ノ上、御返却可有之候也

飾磨県

先般、其県管下奸民暴動ノ節、巨魁ノ者不捕押、元姫路県官員トモ不取締ノ事ニ候、既ニ連判状モ有之上ハ、嚴重探

索ヲ遂、速ニ召捕、即決処置可致事

辛未十二月十二日

太政官

飾磨県へ、別紙写ノ通、今日御達相成候間、此段申入候也

十二月十二日

史官

大蔵省御中